

サハ・シカチアリャン和太鼓交流招聘事業

外務省後援 9年目の日露青年交流事業

主催：サハ・シカチアリャン日露和太鼓交流実行委員会

共催：日露青年交流センター

協力：佐渡島・鼓童 愛川町

企画制作：NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ

2018年8月7日（火）～14日（火）

8月8日（水）～9日（木） 和太鼓の聖地・佐渡島鼓童村訪問

8月9日（木）～12日（水） 日露青年交流9年目、愛川町訪問

神奈川県立愛川高校、愛川町文化会館

2010年夏のテティム、愛川町で



2017年夏、テティムと

愛川高校和太鼓部卒業生で作る和太鼓集団打縁の若者
(サハ共和国ヤクーツク市・北東連邦大学で)



シカチアリャン村で
初めて実施された
笛と太鼓のワークショップ



2017年夏、「第8回愛川町笛と太鼓の音楽祭」「先住民族芸能祭」「アムール民族芸能祭」

昨年2017年の夏、県立愛川高校和太鼓部の卒業生で結成した「打縁」は、プロミュージシャンや支援者など計18人でロシア連邦のシベリア地域にあるサハ共和国のヤクーツク市を訪問した。ヤクーツク市では「第8回愛川町笛と太鼓の音楽祭」を開催した。更にハバロフスク市に移動し「アムール民族芸能祭」、岩絵の遺跡で知られたシカチアリャンでは、「先住民族芸能祭」に参加し、打縁の和太鼓とプロの笛と太鼓の音楽を披露してワークショップも行い、交流した。シカチアリャン村、ハバロフスクで開催された「先住民族芸能祭」は、サハ訪問を機に、特別に企画された催しであった。

サハ共和国との交流の歴史

1986年夏、大野遼、日本のジャーナリストとして初めてシベリア少数民族事情を現地取材

1998年、ハトラエフ夫妻を新潟で開催したユーラシアンフェスに招聘。以来毎年、全国各地で開催するアジア・シルクロード音楽フェスティバルに夫妻を招聘。

2005年3月、「キースデビリエ」サハ共和国国立劇場海外初演彩の国さいたま芸術劇場公演

2006年11月、大野遼サハ共和国荣誉賞受賞

2010年7-8月、愛川高校でサハ共和国児童太鼓グループ「テティム」第一回研修。愛川町文化会館で「アジア・シルクロード音楽フェスティバル サハ太鼓祭り」。16人来日。翌年の東日本大震災と原発メルtdownで2年間休止。

2013年7-8月、「テティム」招聘「笛と太鼓のフェスティバル」開催。18人来日。

2014年7月、「テティム」の女子部「キース・デビリエ」の13人来日。

2015年、「テティム」の子供たちは春と夏の2回来日。春は3月 - 4月に16人が愛川来訪、農村環境改善センターで和太鼓交流春祭りとして、地域の和太鼓団体と交流した。夏は7月 - 8月に9人が愛川来訪、農村環境改善センターで第6回愛川町音楽祭 アジア・シルクロード音楽フェスティバル 笛と太鼓の祭典を開催した。

2016年、前年からロシアの通貨ルーブルの為替が急落し、「テティム」の来日ができず、愛川高校和太鼓部卒業生で作るグループ打縁が中心になって第7回愛川町音楽祭を成功させた。音楽祭終了後の打ち上げで、打縁のサハ派遣が提案され、2017年7月、実現した。

2018年8月、ヤクーツクから19人が、日露青年交流事業で来日

シカチアリャン村との交流の歴史

1991年11月 大野遼、シカチアリャン村を訪問

1993年2月、九段会館でユーラシアンクラブ創設

以来、民族衣装を活用した縫製工場立ち上げ、小学校絵の文具支援、交流キャンプの立ち上げ、アムール汚染対策、村の産業振興等を継続して模索。

1994年冬、シカチアリャンを初め極東、チュコト半島の少数民族村を訪問、ユーラシアンクラブ創設を模索

2003年8月、ハバロフスク、シカチアリャン日露交流促進フェスティバル（日本年事業）

2006年6月、アムール汚染自立支援コンサート

2013年4月 ユーラシアンクラブ創設20年の集いにドンカンさん参加

2015年～2016年、国立民族学博物館、新潟県立歴史博物館、横浜ユーラシア文化館で「岩に刻まれた古代美術 アムール川の少数民族の聖地シカチアリャン」展覧会を開催、国立民族学博物館のオープニングには村長、アイシマの子供たちが参加、芸能を紹介、ドンカンさんは展示解説のため展覧会に参加

2017年7月、シカチアリャン村、ハバロフスクで「アムール川先住民族芸能祭 極東のリズム」を開催、打縁、プロミュージシャン、テティム受け入れ実行員会のメンバーらを歓迎。ハバロフスクのコンサート終演のあいさつで大野遼が、シカチアリャン村をユネスコの世界遺産登録を提案し、満場一致で聴衆の同意を得る

2018年8月、シカチアリャン村から6人が日露青年交流事業で来日。ドンカンさんは札幌の国立アイヌ民族博物館、小樽市、余市町、青森県外ヶ浜町、茨城県ひたちなか市を訪問、来年東京で「文化遺産」をテーマにシンポジウム提案



【日本訪問者紹介】サハ共和国の若者



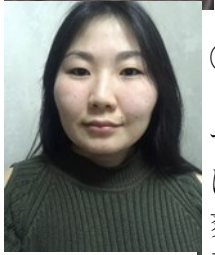
①

ザハロヴァ アンナ/愛称アーニャ。24歳。初めて太鼓をたたいたのは2017年です。考古学者になることを夢見ている。余暇には映画を見たり、本を読んで、英語を学び、太鼓を演奏するのが好きです。チョコレートが好きです。趣味-モデルエージェンシー "Ayyy Kuo"に従事。世界文化の歴史を愛しています。ポール・マッカートニーのコンサートに出かけることを夢見ている。英会話可能。



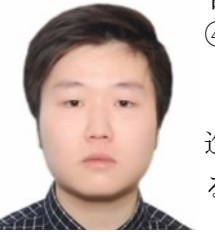
②

ペトロフ ピョートル/愛称ペーチャ。20歳。初めて太鼓をたたいたのは2014年です。余暇には、太鼓をたたき、バレーボールをするのが好きです。好きな食べ物 - 家庭料理。趣味-絵を描くこと。周りの人たちがうまくいくといいなと思っている。



③

マカロヴァ サイナー/サイーナ。27歳。初めて太鼓をたたいたのは2014年です。明るい興味深い人生にふさわしい人間になることを夢見ています。空き時間に、絵を描いたり、太鼓をたたいたり、料理を作るのが好きです。スパイシーで爽やかな食べ物、甘いものが好きです。旅行を夢見ている。趣味-写真。英会話可能。



④

ザハロフ ミチル/ミチル。20歳。初めて太鼓をたたいたのは2014年です。将来医学に進み、成功したい。余暇には太鼓をたたいたり、友人と一緒に出かけたり、映画を見たりするのが好きです。好きな食べ物はステーキです。旅行を夢見ています。最も好きなものはスマホです。



⑤

クズミノフ アルベルト/愛称アリク。21歳。初めて太鼓をたたいたのは2017年です。地質学者になることを夢見ている。彼の暇な時間にギターを弾き、太鼓をたたくのが好きです。好きな食べ物-ロースト（肉野菜煮込み）。趣味-電気部品の収集。目標を達成することを夢見る。最も好きなものはラップトップです。英会話可能。



⑥

ダニロヴァ ディアナ/ディアナ。22歳。初めて太鼓をたたいたのは2017年です。プログラマーになることが夢です。自由な時間に調理し、映画館に行き、太鼓をたたく。お米、サラダ、パスタフルーツ、お菓子が大好きです。趣味は太鼓の演奏。ラップトップ、電話、自転車が好きです。英会話可能。



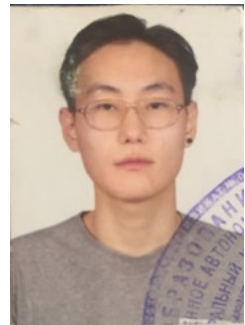
⑦

マクシモフ アレクサンドル/サーシャ。19歳。初めて9歳の時2009年に太鼓をたたき始めました。法執行機関のどこかで、国民に利益をもたらし、人々に良いものをもたらすにふさわしい人になるよう働きたいと思います。主な夢はパラシュートからのジャンプです。好きなものは服です。日本食が好きです。家族と一緒に自由時間を過ごし、時には友人とサッカーをするのが好きです。



⑧

アフアナシェヴァ デュスチーナ/デュスチーナ。15歳。初めて太鼓をたたいたのは2011年です。客室乗務員になることを夢見ています。空き時間に、歌、ダンス、太鼓演奏に従事しています。肉、鶏肉、寿司、スープ、パスタが好きです。趣味- マニキュア、パズルの収集。さまざまなガジェットが好きです(?) 英会話可能。



⑨

エゴロフ ミチル/ミチル。20歳。初めて太鼓をたたいたのは2009年です。創造的な人になり、将来未来は音楽や文学に携わりたいと夢見ています。空き時間にスケートし、人生について考える。好きな食べ物はピザです。趣味は太鼓をたたくことです。英会話可能。



⑩

アリンキン アンドレイ/アンドレイ。15歳。初めて太鼓をたたいたのは2011年です。将来は建築にかかわり、有名になることを夢見ている。自由な時間に、水泳をしたり、太鼓をたたいたりしています。寿司、ロール(?)、ピザが好きです。趣味のスピードキューブ。



⑪ イワノヴァ アンナ/アーニャ

21歳、学生。2017年に初めて太鼓を叩いた。自由時間にギターやドラムを演奏し、映画を見に行く。家庭料理、辛い食べ物、果物やサラダが好き。趣味は、太鼓を叩くこととスイミング。世界の多くの有名なポイントを訪れることを夢見ています。将来、プログラマーとして成功し、両親に誇りに思ってもらい、幸せな家族を作りたいと希望しています。



⑫

チャチコフスカヤ トゥヤーラ/トゥヤーラ。20歳。初めて太鼓をたたいたのは2013年です。自分の行動を後悔しない人間になることを夢見ている。暇なときに映画を見たり、親戚とコミュニケーションしたり、調理するのが好きです。甘く、酸味があり、辛い物が好きです。趣味は太鼓を叩くこと。民族的装飾が好きです。



⑬

スレプツォフ アレクサンドル/サーシャ。15歳。初めて太鼓を叩いたのは8歳の時、2011年だった。コンピュータ プログラムの専門家になるのが夢です。時間のある時はコンピュータゲームをしたり、太鼓を叩いたり、フリースタイルのレスリングをやって、コンピュータの専門学校に通っている。食べ物はフライポテト、コンピュータやスマートフォンが好きです。趣味は絵、狩猟、釣りです。



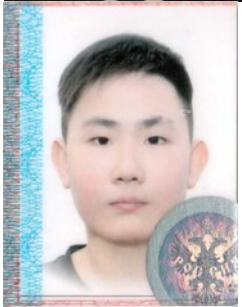
⑭

コロジェズニコフ ガブリエル/愛称ガーンや。21歳。初めて太鼓をたたいたのは2009年です。優れた外科医、誇り高き家庭人になることを夢見ています。暇なときにギター、太鼓、本を読んだり、コンピューターゲーするのが好きです。好きな食べ物は健康的な食べ物です。趣味-縫い物。歴史の中に自分の足跡を残して、人々を助けることを夢見ている。最も好きなのはメダル、カップ、手紙、写真です。英会話可能。



⑮

ブルナショフ デュルール。16歳。2012年、11歳の時初めて太鼓と出会った。彼は人命救助士になることを夢見ている。お気に入りのもの-ヘッドホンとおもちゃのペンギン、好きな食べ物-洋ナシ、チョコレートプディング。時間のある時は、ティームに参加しています。趣味-詩をつくり、音楽の処理（リミックス）をしている。



⑯

ステパノフ アイアール/アイアール最初に太鼓をたたいたのは2012年です。外科医になりたい。余暇には、太鼓をたたいたり、スポーツをすること、映画を見ることが好きです。好きな食べ物-揚げたポテト、麺。趣味はバスケットボールです。子犬など犬と一緒にいることを夢見ています。英会話可能。



⑰

ホユタノフ プロコピー/愛称プローニャ。22歳。最初に太鼓をたたいたのは2006年です。建築家になりたいと思っています。自由な時間には、太鼓をたたくことが好きで、車を運転します。好きな食べ物は肉です。テレビを見るのも好きです。健康な家族を持つことを夢見ています。

※ 同室希望者

A ⑰、⑭、⑦

B ⑯、⑮、⑩

C ⑥、⑤

D ⑪、①



ゲルマン ハトゥラエフ／ゲルマン。 時間のある時にヤクートの太鼓を演奏する方法を教えています。肉料理、牛乳入りお茶、日本料理が好きです。 ウェルネスランニングがしたくて、ジムに通ったり、音楽を作っているのが好きです。 趣味-狩猟、絵画。



クラウディア ハトラエヴァ／クラウディア。 子供たちに伝統楽器であるホムス（口琴）と民謡を教えるための時間を割いています。 肉料理、パンケーキ、ミルクティー、日本料理が好きです。スポーツウォーキングをしに、フィットネスクラブを訪れるのが好きだ。 趣味-帽子を馬の毛から作り、女性の衣装を縫うこと。

クラウディアとゲルマン夫妻

サハ共和国の名誉芸術家で民族歌手クラウディア ハトラエヴァと人民芸術家で民族歌手ゲルマン ハトゥラエフは、ヤクートの伝統楽器の復活と発展に大きく貢献し、ロシアと海外における共和国の権威を高める、異なる国の人々との友好と協力の確立に貢献した。長年にわたって、繰り返し、多くの権威ある国際大会やフェスティバルに参加してグランプリを受賞し、サハ共和国が組織した海外の催しでサハ共和国の民族文化遺産を体現している。 ロシア連邦サハ共和国を代表する創作活動に従事、9枚のCDを発行、サハ（ヤクート）語、ロシア語と英語で伝統的な楽器の著書「Torutのdorgoon」をリリース。

太鼓集団「テティム」について

2006年に初めて民族音楽センター「テリット ドルゴーン」が創設された。センター創設の目的は、民族音楽の保護、ヤクートの民族楽器の普及、若い世代への経験の継承することを目的です。センターの枠組みで、子供の民族グループ「デイエゲイ」（馬の神の創造主）を創設し—元々あった伝統的ヤクートの楽器の演奏そして2008年には太鼓のグループ「テティム」（リズムの意）、「キース ホトン」を結成し、民族音楽文化の最高の伝統を継承している。これらの子供たちのグループは今日、4歳以上120人の子供たちを結集し、観客の間で人気を享受し、受け入れられ、愛されている。

1998年、大野遼さんとテティムの指導者クラウディアとゲルマン ハトゥラエフの交流が始まり、

2010年に、愛川町の愛川高校和太鼓部との協力関係ができました。以来、グループ「テティム」は毎年この高校で研修を受講しています。愛川町での体験はサハ共和国の太鼓芸術の普及を助け、民族的な太鼓による伝統的な演奏を復活させました。グループテティム子供たちの愛川町訪問は、太鼓を演奏する技術の向上、子供の広い視野の向上、北の子供の心理的感情状態の活性化に大きな役割を果たしています。愛川町訪問後には、グループ「テティム」は新しいコンサート曲を手に入れ、国際的なイベントで演奏することができるようになりました。



【日本訪問者人物紹介】 ハバロフスク地方シカチ・アリャン村の若者



オジャル（アジャル） ダリヤ（ダーシャ）

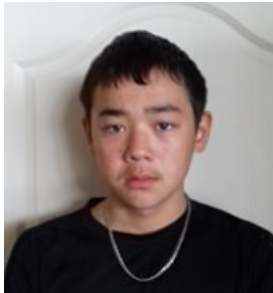
シカチ・アリャン村中等学校8年生。14歳。魚皮加工ができる。「スープ」をテーマにしたテレビ番組の撮影に協力。

絵を描いたり、ニット編みが好き。夢は医者になること。好きな色は青。スマートフォン、スポーツ用衣服。中華料理、韓国料理が好き



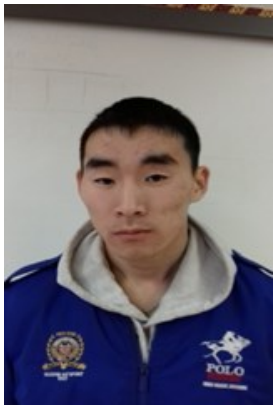
キム オクサナ

シカチ・アリャン村中等学校6年生。2005年7月6日生まれ。12歳来日時は13歳。アイシマで民族舞踊を踊る。趣味はダンス。将来は心理学者か振付家になりたい。タブレット、スポーツ用の自由な衣服。好きな色黒、青。韓国料理が好き。



アクタンコ アルチョム

シカチ・アリャン村中等学校9年生。2002年4月3日。15歳民族アンサンブル「アイシマ」で踊っている。バスケットボール、フェンシング（民族芸能の棒芸？）が好き。Желаю работать в МЧС (помогать людям) 緊急事態省(?)で人々を助ける仕事がしたい。夢は旅行。好きなのは原動機付き自転車（バイク）、スポーツ用衣服。好きな色は黒。好きな食べ物は肉、ピラフ。



アクタンコ マクシム

22歳。член молодёжной организации КМНС "Феникс Амура" 趣味はバスケットボール、バレーボール。自動車整備士。夢は日本で仕事すること。趣味はラップトップ、スポーツ用衣服。好きな色は赤、黒。好きな食べ物は肉。



キム アナスターシア

シカチ・アリャン中等学校9年生。16歳。検事になりたい。サッカーをしたい。ジーンズ、スニーカー、ドレスが好き。好きな色は黒、赤。韓国料理が好き。



ドンカン ビクトリヤ レノンチェブナ

シカチ・アリヤン村中等学校教諭。伝統文化継承者。
民族アンサンブル「アイシマ」リーダー。
村のシャーマン。ユーラシアンクラブ会員。趣味はナナイの民間伝承。夢は旅。好きなのは太鼓（シャーマン）、本。好きな色は赤、青。
好きな料理はナナイ料理、中国料理、日本料理。

指導者ドンカン・ビクトリヤさんと民族芸能グループ「アイシマ（黄金の意）」

アイシマは学校の伝統文化のグループです。参加したいすべての子供がグループに参加できます。ナナイの民俗舞踊、歌、早口言葉、ゲーム、ダンスを学びます。最も上手な人はコンサートに参加できます。アイシマは、ナナイ語とナナイの文化を勉強するために作りました。多くの親たちが母語であるナナイ語を話さなくなっています。そのため2002年、学校の生徒を対象に希望者にナナイ語や伝統文化を教えるようになりました。50人くらいの生徒数のうち、常に15人くらいがアイシマのメンバーで、村には元アイシマのサポーターがたくさんいます。



※指導者のドンカンさんは村のシャーマン。極東のシャーマンと時々森林修行を行い、シャーマン文化の継承と育成にも努めている。

指導者ドンカンさんとユーラシアンクラブ



ユーラシアンクラブ創設の希望を持って大野遼がシカチアリヤン村を訪ねたのは1991年11月。村人と出会ったのは旧ソ連崩壊直後で混乱する村役場の村長室。数十人の村民が大柄のロシア人村長を囲み大声を上げて議論の真っ最中だった。1992年には、極東少数民族村の視察ツアーを募集して、ハバロフスク地方政府庁舎でシンポジウムを開催し、ユーラシアンクラブの創設を提案。翌年の1993年2月10日、極東の少数民族代表14人を招き、九段会館で国際シンポジウムを開催し、ユーラシアンクラブを創設した。創設シンポジウムの来日メンバーの一人がドンカンさんだった。以来、ドンカンさんの要望で、中古ミシン約100台を集め、伝統的ナナイの文様を縫い込んだ小物を縫製する工場ラインを整備して村民が生産に従事したり、大豆生産の模索、アムール魚種の養殖、観光振興なども模索し今日に至る。ドンカンさんは、2013年4月、日本橋で開催された、ユーラシアンクラブ創設20周年の集いにも参加、2015年～2016年にかけて大阪の国立民族学博物館、新潟県立歴史博物館、横浜ユーラシア文化館で開催した「岩に刻まれた古代美術 アムール川の少数民族の聖地シカチアリヤン」展にも展示解説のため来日し、2017年夏の和太鼓交流のためのサハ訪問では、シカチアリヤンとハバロフスクで先住民族芸能祭をコーディネートし、笛と太鼓のワークショップに参加する子供たちをアレンジした。今回のサハ・シカチアリヤン和太鼓交流の招聘では村の若者5人の参加を決めた。ドンカンさんは今回日露青年交流センターの招聘事業では招聘対象にならなかったが、自費で来日。若者たちの帰国後は、日本に残留し、ユーラシアンクラブの仲間と一緒に、茨城県、青森県、北海道を訪ね、来年東京で文化遺産をテーマにしたシンポジウムを開催するために4つの自治体の首長、教育長に面会する希望を持っている。シカチアリヤンに残る岩画、伝説や神話、最古の土器が、日本の縄文時代の始まりや環日本海の交流にかかわることを知ってもらうことにしている。シカチアリヤン村の祖先と日本列島の祖先が共通であることが考古学的に証明され、射日神話、シャーマンの天界、地上、地下界を移動する世界も、古事記に記され、メオ族、殷の射日神話と関わりがあると考えられている。日本人はもっと興味を持っていいことである。

良く使われるサハ語のあいさつ

日本語	サハ語	ロシア語
こんにちは	ドローボ	ズドゥラスツヴィチェ
さようなら	コルスオツヘ ゼエリ	ダフストゥレーチュ/ダスヴィダーニャ
おやすみなさい	ウチュゲイディク	スパコイノイ ノーチ
ありがとう	マフタル	スパシーヴァ
またね	パカ	ダスヴィダーニャ
こっちに来て	ケル	イッチシュダ
あっちに行つて	バル	ウハヂ
やって来る	チューダヴァイ	モジナ ブメスタ トスタ
ある (いる)	バール	イエスチ
ない	スオフ	ニェットー
座つて	オロール	サヂーシ
立ち上がる	トゥール	フスタニ
これはそうです	マンニイク	エタタク
良い	ウチュゲイ	ハラショ
悪い	クサガン	プローハ
満足	オルト	ウドブレトゥヴオリテリナ
こっち	マンナ	シュダ
あっち (そっち)	オンノ	タム
それをやる	オノル	ズデェライ
感謝する	マフタル	ブラガダリュ
ありがとう	バヒィーバ	スパシーバ
どうぞ、してください	バハーリィスタ	パジャールスタ
ごめんなさい (すみません)	ブィラスティー ギン	プラシュー プロシェニャ (プラスティーチェ)
誤り、まちがい、エラー	アルガス	アシフカ
食べて	アハーン	クーシャイチェ
食べて	ミンニィゲスティク ア ハーン	クーシャイチェ
大変おいしい	ナイアー ミンニィゲス	オーチェン フクースナ
食べた	トツツム	ナイエルシャ
あなたのように	ハイダフィニィ	カクヴィ
万歳！	ウルイーアイハル	スラヴァ (ウラー)
退屈だ	チュンクク	スクーチナ

サハ語の数詞

1	ビール
2	イッキ
3	ユース
4	チュエルト
20	シュルベ
30	
40	
50	ビズス ウオン
100	シュユス

シカチ・アリャン村のナナイ語のあいさつ

日本語	ナナイ語	ロシア語	ナナイ語の数詞
			1 エムン
こんにちは	バチゴアプ	ズドゥラストゥビィチェ	2 デュエル
お元気ですか	ホニ ビス	カク ジェラ カク パジバイチェ	3 イラン
元気です、まあまあです	アヤ	ノルマリナ	4 ドウイン
お名前は何ですか？	ゲルプシ ウィ	カク ツヴォイ イミヤ	5 トインガン
私の名前は	ミ ゲルプイ	メニヤ ザブットゥ	6 ニュンゲン
年齢は？	ハド セ	スコリカ レト ヴォズラストゥ	7 ナダン
私は15歳です	ミンドゥ15セ	ムニェ 15レト	8 チャクプン
これは何ですか？	エイ ハイ	エタ シュト	9 フュン
これは家（建物）です	エイ チョ	エタ ドム	10 チョアン
何が欲しいですか？	ハイバ グレイシ	シュト ティ ホチェシ	11 チョアン エムン
私は食べたい	デムシイ	ヤ ハチュ エスチィ	12 チョアン デュエル
私は飲みたい	ホルゴモシイ	ヤ ホチュ ピチ	20 ホリン
私は寝たい	アマシイ	ヤ ホチュ スパチ	30 ゴチン
行きましょう	エネグエリ	パイジョムチェ	40 デヒ
仕事をしましょう	チョボンダゴアリ	パイジョムチェ ラボタチ	50 ソシ
ありがとう	バニハ	スパシーバ	60 ニュングイング
今何時ですか	ハド チャサ	スコリカ ブレメニ	70 ナダインゴ
3時です	イラン チャサ	イラン チャサ	80 チャクポインゴ
外は暖かい（暑い）	ボアラ ニヤマ (ペク)	ナウリツェ テェプロ（ジャルカ）	90 フユイ
私は好きです	ミ ウレシイ	ムニェ スラビツァ ヤ リュブリユ	100 エム タンゴ
美しい きれい	グチクリ	クラサタ クラシーバ	1000 エム ミンガン
面白い	エルデング	インテレスナ	
私は欲しくない	エンゲェ	ヤ ニ ハチュ	
そうです	イン	ダー	
ちがいます	アバー	ニェト	
さようなら またあいま しょう おげんきで	ペデム デレヂグス	ダ スビダーニヤ/スシャストリバ ア スタバツァ	
		ダスビダーニヤ、	
さようなら お気をつけて	ペデム エヌス	スシャストリバガ プチ.	
お幸せに お元気で	ウレンディ、アヤ ディ バルディオス	ウダーチ バム イ ズダローヴィヤ	

サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介

【愛川清流太鼓】

愛甲郡愛川町から参加いたします、「愛川清流太鼓」と申します。愛川町半原地区の夏まつりのお囃子を絶やさず伝えて以降と平成13年に地元の方々を中心に「半原まつり研究会」として発足し、「半原清流太鼓」として活動してまいりました。愛川町民がどなたでも参加できるよう「愛川清流太鼓」と名称変更し、日本の伝統文化である和太鼓の継承と地域づくりや、豊かな社会性を有した人づくりに寄与することを目的として活動しています。現在、文化庁「伝統文化継承事業・和太鼓親子教室」を開催し、より多く子ども達に日本の伝統文化を継承しています。（代表 滝澤 吉男）



サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介

【太鼓集団 舞彩駒】

会長：沢田 和雄

代表：佐々木 利幸

「舞彩駒」は1996年1月、厚木市内の混声合唱団有志によって結成されました。そのユニークなネーミングは「舞台を色鮮やかに舞う駒のように」と名づけられました。発足当時は太鼓の代わりにタイヤを叩き、音の苦情で練習会場を転々としながら雨や風、雪をしのいで相模川の橋の下をホームグラウンドとし、練習を続けてきました。そんな「舞彩駒」も「和太鼓の楽しさをみんなで」を合言葉に伝統的な太鼓曲だけでなく、近代的な創作太鼓曲などレパートリーは広く、小学生から80代まで60名以上の会員で、年間約30～40回の演奏活動をしております。

2018年2月、結成22年にして厚木市文化会館大ホールにおいて大規模なコンサートを行い、厚木市を中心に益々の演奏活動に精を出しています。



サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介

【相模龍王太鼓保存会】

相模龍王太鼓保存会は昭和56年に有志が集い発足した創作和太鼓集団です。



“青少年の健全な育成”を目的に活動しております。

御諏訪太鼓宗家・故小口大八氏の指導により御諏訪太鼓の伝承に努めるとともに、

和太鼓の新たな可能性の追求をしつつ創作活動に励んでおります。

世界最大級の大太鼓（8尺）『ん太鼓』の認定奏者を3名輩出し各博覧会での演奏に参加しております。

会員構成は、3歳～小

学生までの少年部、中学生～の青年部、壮年層の鼓友部、保護者から成る鼓楽部の4部構成で40余名で活動しております。

今後も伝統文化の保存継承に努めると共に和太鼓の新たな可能性の追求をしてまいります。

サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介

【未来太鼓道場】

未来太鼓道場は、プロの和太鼓演奏団体「梵天」によって運営されてる和太鼓教室です。太鼓が好きな老若男女が集まり、小林政高先生指導の下日々研鑽を積んでいます。道場生としての活動でもっとも多いのは、障害者や老人などの福祉施設や、幼稚園や学校などへの訪問演奏です。結婚式や地元の祭りやイベントなどでも積極的に活動しており、各方面より大変喜んでいただいています。



サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介



【虹鼓にじっこ】

愛川高校が地域住民との交流事業の一環として募集したコミュニティスクールのひとつに和太鼓があり、それに応募したのが虹鼓の始まりです。かれこれ10年近くになります。当初からのメンバーは少なく現在6人で愛校武道場で第二・第三土曜日1時から3時まで練習に励んでいます。愛校生の躍動感あふれるバチさばきにうっとりするばかりでなかなかうまく打てないメンバーではありますが、上達しないのを歳のせいにならず、大空の虹のごとくそれぞれのカラーで思いっきり、太鼓を打ちたいと近年グループ名を付けました。赤川先生の指導のもと心身をフル回転させ、年1回愛校和太鼓部定期演奏会でゲスト出演させてもらっています。メンバー募集中です。（虹鼓リーダー 長澤紀美子）

サハ・シカチアリヤン和太鼓交流フェスティバル参加団体紹介

【愛川高校和太鼓部】

愛川高校和太鼓部は、14年前、赤川猛さんが創設。現在14期生の一年生が8人、13期生の2年生が2名、12期生の3年生が3人の13人で活動しています。これまでに関東大会で入賞2回。神奈川県県央地域で、愛川町、厚木市を中心に自治体の地域祭りや、老人ホームや社会福祉会の祭り、など年間30回余りのイベントにボランティアで出演し、喜ばれています。OB、OGの助けを借りながら、日々練習を重ね、現在3年生は、8月の最後の大会にむけて日々練習を重ね、2、1年も技術の向上のため一丸となって、練習を続けています。

毎年3月、終業式の前に定期演奏会を最後に、卒業生を送り出し、愛川高校和太鼓部の活動は継承されています。その第1期生の呼びかけで卒業生が創設したグループが打縁です。今回は、和太鼓部の在校生が、1打1心に心を込めた演奏を行います。お楽しみください。



【打縁】

2014年に愛川高校和太鼓部を卒業したメンバーでもう一度みんなで和太鼓をやろうという、綱島健二の一言で始まったのが打縁です。今では「和太鼓を打ってつながった人と人の縁を大切に」をモットーに日々活動しています。事件が生じたやまゆり学園での演奏、宮ヶ瀬ダムナイト放流観光での演奏など20件のイベントで演奏するようになり、一昨年は、60年前に失われた、八菅神社の奉納祭り太鼓の復元に取り組み、八菅・下谷地区の人々から喜ばれ、去年は、サハ共和国の太鼓文化復活に協力するサハの子ども達で作る太鼓グループ「ティム」の研修に協力してきた縁で日露青年交流事業によるロシアツアーに参加し、たくさんの人々に触れることができるようになりました。今では、作曲にも取り組み、縁が繋がった人たち、さらにはこれから繋がっていく人たちにも、打縁っていいグループだねと言ってもらえるグループになれるよう、トライ&エラーの精神で日々新しく挑戦し続けます。よろしくお願いします。（サブリーダー 氏家智郎）



2017年夏、ロシアでの第8回愛川町音楽祭、アムール先住民族芸能祭で打縁と一緒に演奏しました

ーサハ共和国の首都ヤクーツク北東連邦大学、シカチアリャン村、ハバロフスク市サーカス劇場でー

パンチャラマ（チョウタリバンドリーダー、ネパールのバンスリ奏者） 愛川ではいろんなミュージシャンと出会い刺激を受けた。大野さんの思いをわかってもらうのも交流も難しいと思う。笛と太鼓にこだわって愛川でコンサートが続いてきたのはサポートがあってできたことでありがたいことだ。昨年のロシアでのコンサートは思った以上に楽しくでき、成功だったと思う。伝統と創造の融合が私の音楽の原点。サハのハトラエフ夫妻の歌も取り入れて創作したい希望を持っている。若者たちの未来に期待している。

木村俊介（篠笛、津軽三味線演奏者） 日本から然程遠くない地に、日本人と良く似た面立ちの人々が、自分たちの民族文化に誇りを持って生きていることを、これまで自分が全く知らなかったこと。学校教育でも全く習わなかったことをとても不思議に感じました。・・・とても豊かで幸せな気持ちになりました。

【TETIMの初の来日研修のときのこと】－2010年夏。

せっかく日本まで来て学ぶのだ。私が提唱する、自然の力と調和する打法 “ゆるみ打法” と「立ち、座り、歩き、礼」という基本の所作を、日本の身体文化としてご指導した。そのことも功を奏したのだろうか、帰国後に親御さんが「子どもたちが変わった」という喜びの声を下さったと聞いて、これはなにより嬉しかった。その後、東日本大震災の年とその翌年は私がサハに赴いたが、年一回のペースで来日され、ご指導と楽曲提供に関わった。その過程で見たものは、年少メンバーが先輩になり、自分の意見や感じたことを皆の前で自分の言葉で話し、後輩をしっかりと指導する頼もしい姿だ。あの集中力が続かず、すぐにおしゃべりしたり駆け回ったり、あるいはシャイ過ぎてどう感じているのかわかりかねる子が、ほんの1~2年でだ。

文化の本質は、人づくり。だとすれば、サハの太鼓文化復興を掲げるTETIMのリーダー、ゲルマン・ハトラエフの試みは、見事に本質を具現化していると言えよう。めざましく成長する子供たちとハトラエフに接して強く思ったことがある。

それは「文化が人をつくる」。そして「人が文化をつくる」ということだ。

この子達がサハ太鼓文化の担い手となるだろう。そして日本文化との架け橋になってくれることに期待したい。



9年前、愛川町で始まったサハの太鼓文化復活を目指した研修と音楽祭を終えて

←金子竜太郎氏



サハの太陽神に奉納演奏 →

シベリアの兄弟

太鼓芸能集団鼓童 名誉団員 山口幹文（篠笛奏者）

十年ほど前の初めてのシベリアツアー（大野遼がコーディネータとして参加）は、初めての地とあって毎日が驚きの連続でした。中でも忘れられないのが、サハの人々が私達を「兄弟」と呼ぶことでした。彼らの言葉は分からなかったけれど、それは少なくともラテン系の人が発する無邪気な「兄弟」ではなく、どことなく切実な響きを含み、通り一遍の社交辞令でないことは確かでした。もちろんシベリアのある地が（バイカル湖近辺？）、日本人の故郷のひとつであろうことは知っていましたが、それは夢のような遙か遠い昔のことです。

サハの人々は容姿は私達とかなり近いこともあり、自然に親近感は湧くけれど、今更「兄弟」などと真顔で言われても戸惑うばかりでした。追い打ちをかけるように通訳から「骨と肉に分かたれた兄弟が居ることを、日本に帰ったら伝えて欲しい」という意味の言葉を聞き、何だか親戚のおじさんに叱られたような気分になりました。日本は孤独な列島であるという思い込みに、私達はシベリアの同族をすっかり忘れていました。屈託なく「兄弟」と呼び合うようになるためには政治や経済での紐帯ではなく、人的交流を優先しなくてはなりません。

まずは一緒に歌ってみる。そしてその輪を広げていくことが大切なのだと思います。

伝統文化再生で、ロシアとの交流再スタートに期待

公益財団法人鼓童文化財団 専務理事 菅野敦司

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。「鼓童」とは、人間にとって基本的なリズムである心臓の鼓動から音（おん）をとった名前です。大太鼓の響きが母親の胎内で聞いた最初の音をイメージしている。そして「童（わらべ）」の文字には、子どものように何ものにもとらわれることなく無心に太鼓を叩いていきたいという願いが込められている。

1981年、ベルリン芸術祭でデビュー。以来50の国と地域で6,000回を超える公演を行なってきました。なかでも、多様な文化や生き方が響き合う「ひとつの地球」をテーマとした「ワン・アース・ツアー」は、世界各地で3,900回を数えています。劇場公演のほか、小中高校生との交流を目的とした「交流学校公演」、ワールドミュージック・クラシック・ジャズ・ロック・ダンスパフォーマンスほか異なるジャンルの優れたアーティストとの共演や、世界の主要な国際芸術祭、映画音楽等へ多数参加している。

その鼓童とテティムとの交流は、2003年に、ヤクーツクで開かれたロシアユースオリンピック（2004年）の開会式で、結成まもない彼らの演奏を観に行きたくて欲しいとの、ユーラシアンクラブ代表の大野さんからお声がけいただいたところから始まった。当時鼓童メンバーであった金子竜太郎さんと一緒に、初めてサハ共和国を訪問した。そして、リーダーのゲルマン・ハトラエフさんから、鼓童の映像と音源から着想を得て、サハ伝統のシャーマン太鼓を、合奏で演奏するスタイルを始めたとの話を聞いて、驚いたことを今でも新鮮に記憶している。佐渡からウラジオストック経由で3日かけてたどり着いた、北極圏に近いシベリアの極地で、そのような活動を始めている人たちがいるとは、想像だにできなかったからだ。一方、太陽、馬、鶴を信仰の対象とするサハの文化的伝統を教わる中で、習慣的にも、感覚的にも、日本人と多くの共通性があることを知り、納得したことを覚えている。

その後、2005年にはハトラエフ夫妻が若手メンバーを連れて佐渡を訪問し、鼓童村に滞在しながら稽古と交流を行った。そして、2006年には佐渡で開催される国際芸術祭「アース・セレブレーション」に、ハトラエフ夫妻に出演いただき、鼓童との共演も実現した。2006年10月には、鼓童の極東ツアーとしてヤクーツク公演が実現し、テティムとの共演を披露することができた。



そのような中、ハトラエフ夫妻、テティムのメンバーは、日本での継続的な太鼓の研修を希望されていたが、当時は鼓童の受け入れ態勢も十分でなかったことから、金子竜太郎さんの指導と神奈川県立愛川高校の和太鼓部との交流に繋がっていったと伺っている。そして、この度、日露青年交流センターの招きで、日本訪問が実現し、15年振りに佐渡を訪問してくださることを楽しみにしている。

サハ・シカチアリヤン和太鼓交流招聘プログラム 2018/7/26

日付	時間	サハ19名	シカチアリヤン5(6)名
8月7日 (火)	5:20	ヤクーツク発(R3 4449)	11:55 ハバロフスク発(S7-567)
	8:40	ハバロフスク着(飛行時間 2:20)	13:35 成田(第2T)着(飛行時間 2:40)
	9:40	ハバロフスク発(R3 4449)	
	12:00	ユジノサハリンスク着(飛行時間 1:10)	
	13:40	ユジノサハリンスク発(R3 549)	
	13:50	成田(第1T)着(飛行時間 2:10)	
	14:30-19:30	成田から直江津へ移動(途中昼食) ホテルみなと荘着、チェックイン、夕食	・チャーターバス(28名乗車) 上越市港町1-17-6 ☎ 025-543-1150
8月8日 (水)	4:00	チェックアウト、ホテル発	(徒歩?)
	4:40-6:20	直江津→小木(佐渡汽船)	・高速カーフェリー「あかね」(26名)
	7:00	鼓童村着、朝食	・チャーターバス(28名乗車)
	9:00	鼓童村発、鼓童文化財団研修所へ	
	10:00-11:00	和太鼓体験	☎ 0259-86-2320
	11:00-12:00	研修所発、鼓童村へ	
	12:00-13:00	昼食	
	昼食後	和太鼓体験、鼓童村見学、スライド上映など(2時間)	
	18:00	夕食、交流会	(鼓童村泊)
8月9日 (木)	6:00	起床	
	7:00-	朝食	
	8:30-10:30	鼓童村での交流プログラム(または宿根木視察) 和太鼓体験	・チャーターバス(28名乗車)
	11:50-13:30	小木港→直江津	・高速カーフェリー「あかね」(26名)
	13:40-14:10	直江津港→上越妙高駅前	・シャトルバス(27名乗車)
	14:59-16:52	上越妙高→東京(はくたか566号)	・北陸新幹線利用(予定)
	17:00-18:30	東京→愛川町へ移動	・チャーターバス
	18:30	愛川魚苑着、チェックイン ボランティア通訳紹介	愛甲郡愛川町角田2660 ☎ 046-281-2397 (愛川魚苑泊)
8月10日 (金)	終日	朝食 愛川高校訪問(和太鼓部と交流)	愛甲郡愛川町三増822-1 ☎ 046-286-2871
	18:30	歓迎会	・チャーターバス(27名乗車) (愛川魚苑泊)
8月11日 (土)	8:30	朝食 宿舎発	
	9:00-17:00	リハーサル(於:愛川町文化会館)	愛川町角田250-1 ☎ 046-285-2111
	夕食	八剣伝	・チャーターバス(27名乗車)
	21:45	宿舎着	(愛川魚苑泊)
8月12日 (日)	午前	朝食 地域の太鼓団体との合同練習	
	午後	地域の太鼓団体と交流コンサート (於:愛川町文化会館)	愛川町角田250-1 ☎ 046-285-2111
	18:30-21:20	打上懇親会(於:愛川町文化会館3階大会議室)	・チャーターバス(27名乗車) (愛川魚苑泊)
8月13日 (月)	9:00	朝食 チェックアウト、ホテル発 都内近郊視察 (富士山、太平洋見学を希望) 東京タワー、お台場など	・チャーターバス(26名乗車)
	20:00	夕食 「ハートンホテル東品川」着、チェックイン	品川区東品川4-13-27 ☎ 03-5495-0810 (ハートンホテル東品川泊)
8月14日 (火)	7:00-	朝食	
	8:30	チェックアウト、ホテル発	・チャーターバス(26名乗車)
	9:00-10:00	都内視察(皇居)	
	12:00	成田空港(第2ターミナル)着	
		サハ19名	シカチアリヤン5(6)名
	16:50	成田(第1T)発(R3-550)	14:35 成田発(S7-568)
	21:00	ユジノサハリンスク着(飛行時間 2:10)	18:25 ハバロフスク着(飛行時間 2:50)
	22:35	ユジノサハリンスク発(R3 4450)	
	23:00	ハバロフスク着(飛行時間 1:25)	
8月15日 (水)	0:05	ハバロフスク発(R3-4450)	
	1:35	ヤクーツク着(飛行時間 2:30)	

2018年8月7日～14日 日露青年交流招聘事業成功のためにご協力いただいた皆様

サハ・シカチアリャン和太鼓交流実行委員会 実行委員長 赤川 猛

サハ・シカチアリャン和太鼓交流実行委員会 顧問 諏訪部 勲

(これまでチーム受け入れ実行委員会委員長)

打 縁 綱島 健司(打縁創設者) 氏家 智郎(打縁サブリーダー) 高岸 美季 本間 えりか

田中 杏平(打縁指導) 山田 梨江 福中 雷/以上昨年夏ロシアを訪問した打縁メンバー

実行委員 赤川 美紀 大高 智子 岡本 隆 大塚 憲二 国久 穎子 久保田 弘美 四井 恒夫

杉中 泰雄 杉原 信義 杉原 美智子 高橋 喜久子 長澤 紀美子 中丸美江 望月七平

和太鼓参加団体 愛川清流太鼓(愛川町)、相模龍王太鼓(相模原市)、舞彩駒(厚木市)、

未来太鼓道場(町田市)、虹鼓、愛川高校和太鼓部、打縁(愛川町)、

ボランティア通訳 井上 和秋 萱 徳子 中田 美智子 小島 淳 竹村 麻衣

協力者 井口 隆太郎 池田 源一郎 伊藤 智久 江藤 セデカ カイル ラフマンジャン

清田 由紀江 グリザル ヌスラデ 小島 昭吾 矢部 誠 山田 美奈 米沢 佳奈

協力ミュージシャン 金子 竜太郎(和太鼓奏者) パンチャラマ(バンズリ奏者)

サラバンラマ(タブラ奏者) 寺門 貢(ギター奏者) 木村 俊介(篠笛奏者)

協力団体 佐渡島・鼓童 中津川仙台下クラブ 愛川町自然観察会

共催団体 日露青年交流センター

後 援 外務省

協力自治体等 佐渡市 愛川町 愛川町教育委員会 愛川町文化会館 愛川町行政区

企画制作事務局 NPOユーラシアンクラブ・愛川サライ

住所 神奈川県愛甲郡愛川町中津6314-1 Tel 046-285-4895 Fax 046-265-0167

ホームページ <http://eurasianclub.org/> E-mail paf02266@nifty.ne.jp 携帯電話 090-3814-5322 (大野遼)

NPOユーラシアンクラブ・愛川サライです。どうぞおいでください。「愛川アジア塾」でお迎えします。



わたしたちは「サハ・シカチアリヤン和太鼓交流事業」を応援しています。

【企業団体】

井口産業株式会社

代表取締役 井口 隆太郎
住所 千葉県浦安市鉄鋼通り1-3-3
電話047-354-3221 FAX047-352-2266
<http://www.iguchi.steel.go.jp>



OPENING SALE

手織り絨毯・民芸品・アクセサリー
アフガニスタン・イラン・パキスタン
株式会社ハリロード
代表取締役 江藤セデカ



NPOイーグル・

アフガン復興協会

理事長 江藤 セデカ

売上の一部を寄付し、アフガニスタンの
子どもや女性の生活支援。ダリー語教室
ひとクラス5名様で開講中
〒162-0067東京都新宿区富久町8-19
エスポワール市ヶ谷 10F
TEL 03-5366-6451 FAX 03-5366-6452

株式会社 玉川文化財研究所

代表取締役 戸田 哲也
本社・研究所
横浜市神奈川区西神奈川1-8-9
〒221-0822 TEL(045) 321-5565
FAX(045)321-5855
E-mail:tamaken@coral.plala.or.jp

【業務内容】文化財部門の業務

1 試掘調査・本格調査 2. 遺物整理・報告書作成 3. 遺跡関係測量一般4. 自然科学分析5. 土器復元・修復・保存修理等文化財保存修復。史跡整備設計・監理

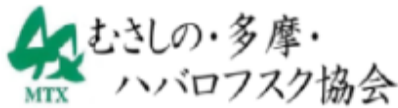
埋蔵文化財調査業務

有限会社 宏和环境整備社

代表取締役 水原 繁

本社〒180-0023東京都武蔵野市境南町2-27-5-203
電話0422 (32) 5543
横浜支社〒231-0023横浜市中津翁町1-1-1
ロイヤル関内803号
電話045 (663) 1588 FAX045 (663) 1590

特定非営利活動法人



理事長 安藤栄美

〒180-0002
武蔵野市吉祥寺東町1-15-25
TEL/FAX 0422-23-5351
Email : mail@mtxa.org
Web : <http://mtxa.org>

愛川国際交流クラブ

外国籍住民との多文化共生

〒243-0301神奈川県愛甲郡愛川町角田2387
TEL046281-0919
日本語教室スピーチ大会実施等親睦促進

日蓮宗 妙誠寺

伊藤 智久

〒243-0307神奈川県愛甲郡愛川町半原90
TEL 046-281-2776
FAX046-281-3551

一般社団法人

日露ユーラシア交流振興協会

代表理事 内田 昭二

ロシア・中央アジアの零細中小
企業との経済交流を促進

〒103-0007東京都中央区日本橋浜町2-27-1
浜町ビル3階
tel:03-6661-2531
e-mail:fwkf2465@mb.infoweb.ne.jp

三和織物株式会社

代表取締役 花上 公男

〒243-0306神奈川県愛甲郡愛川町田代101
TEL046-281-0513
FAX046-281-0514

特定非営利活動法人 ユーラシアンクラブ・愛川サライ

会長 大野 遼

ユーラシアンクラブ創設25年。愛川サライ設置12年。北方ユーラシア学会創設以来、ユーラシア大陸との交流の系譜解明に努力、アジアの先住少数民族にウェートを置いた理解親睦協力の模索が大切だと考え活動。「愛川アジア塾」、少数民族通信社設立、シルクロードユニオンの活動を掲げている。加藤九祚先生顕彰、「タジクの黄金遺宝」日本語版発刊に取り組んでいる。丹沢の東端愛川町は、太陽と水の世界観で中央アジアとつながっている。

住所 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6314-1
電話046-285-4895 FAX046-265-0167 ホームページ <http://eurasianclub.org/>
E-MAIL paf02266@nifty.ne.jp 携帯 090-3814-5322 (大野)

【個人】 諏訪部 勲 国久 穎子 落合 勝司 望月 七平

【寄付の振込先】 郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ

ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ